

ヒマラヤ最奥放映と私の山麓ハイク

御法川齊

コロナ禍が騒がしくなった 3月8日に TV 朝日開局60周年記念「氷と雪に閉ざされた秘境の地 ネパール・ドルポ地方」が放映された。山岳ディレクター他が決死の取材、2年間に150日撮影。

ポカラ(800m ネパール第2の都市27万人。ダウラギリ、アンナプルナ、マナスル8000m級のヒマラヤ連峰が眼前に見えるトレッキング基地、紺碧のペワ湖に臨む)からジョムソン村を経て更にヒマラヤ最奥のドルポ地方に至る。(その先は中国・チベットに通じる)

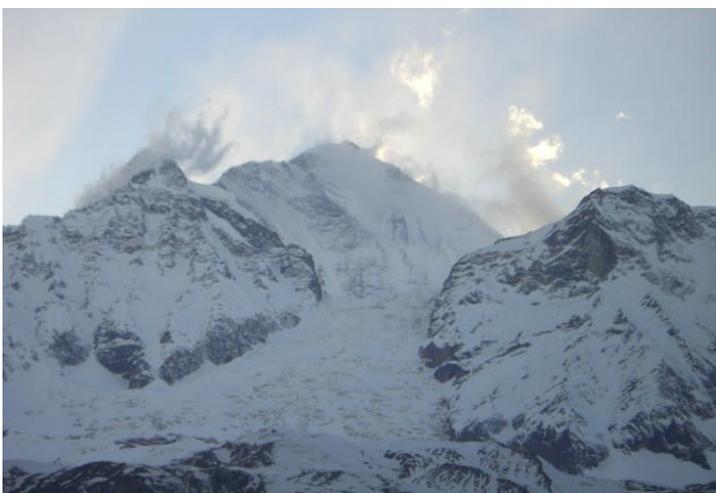
其処のティンギュー集落(500人、酸素濃度60%)では正月2月5日の仮面祭り、1妻多夫(兄弟も)の奇習もあり、(信じがたいが)仲が良い!と言う。バター茶はスープと紅茶の中間、ヤク肉・ジャガイモのカレー、現代医学と違う治療法。

所で、小生は丁度8年前の2012年3月8日~17日、未だ腰痛も無く元気な時に JTB ヒマラヤ山麓ハイク旅行の体験あり懐かしく拝見。再放映を期待。上記ジョムソン村にポカラから18人乗り軽飛行機で20分飛び3泊4日。世界第7位の8000m峰ダウラギリのお膝元ナウリコットの丘陵2700mに建つ絶景ロッジ「タサンビレッジ」1泊&「ジョムソンマウンテンリゾート」2泊し、3日間100m程の高低差のハイクを4コース体験。最後の日に出発時には好天だったのが途中から30m級の山嵐になった。途中で“あの道が中国に至る道”との説明。午後2時にハイクから帰還直後に天候急変で吹雪に見舞われ気を揉んだが夜中に止んで翌日、帰路の軽飛行機が飛来せず1泊追加か?とヤキモキしましたが何とかポカラに引返せた体験も。

無論、軽飛行機でエベレスト、アンナプルナの遊覧飛行も2回楽しみました。後から判った事ですが時々乱気流に巻き込まれて墜落する事を知り、胸を撫でおろした次第です。食事はネパール料理でカレー料理系だった。物余り生活の我々からみると近年有名になったブータン同様に貧しさと満足度が同居する生活実態を垣間見た。1例として当時だがプラスチック公害が顕著。紙は腐るので最後には目立たない。段ボールは食料難で牛が食べる。

昨今のコロナ禍の現実に戻り、今日も近隣の荒井沢市民の森をハイクしましたが、そんな事もあったなあ~と懐かしむ時が待たれます。

ダウラギリの感動的諸景をジョムソンホテル屋上から(朝焼け直前、朝焼けで黄金色に輝く。手前は氷河)



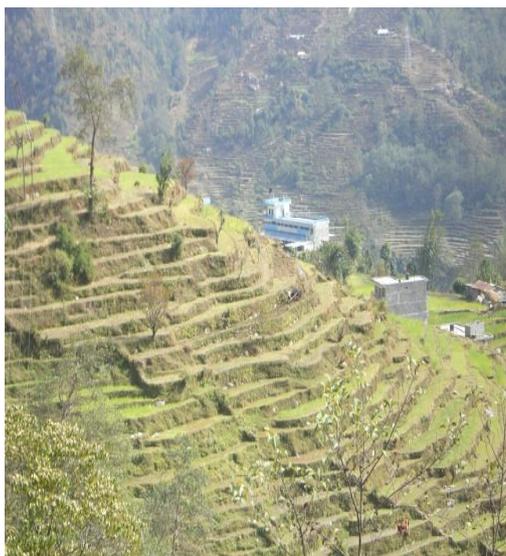
エベレストを遊覧飛行機から（左手奥がエベレスト、手前はローツエ）



砂嵐のジヨムソン吊り橋を行く



何処も急峻な段々畑に麦、野菜を作っている



ポカラ公園に先祖ヒマラヤサクラ



以上